

1 沖縄の地質

◆いたるところに「琉球石灰岩」

沖縄県の島の全面積の約 1/3 は、琉球石灰岩で占められている。琉球石灰岩は今から 165 万年前～12 万年前に、サンゴ礁やその周辺の海の堆積物が隆起して地上に現れたもの。日本地質学会は沖縄県の石として琉球石灰岩を認定している。

沖縄滞在中、いたるところでこの岩石を目にすることができた。



●万座毛・どうさん岩

ゾウの鼻のような形をした隆起サンゴ礁の断崖。崖の高さは 20m に及ぶ。石灰岩の海食崖であるが、波浪だけでなく地表からの石灰岩の割れ目にしみ込んだ水による溶解作用がこの地形の成り立ちに重要な役割を果たしているとか。



●今帰仁(なきじん)城跡の城壁

琉球王国のグスク。13 世紀ごろの築城と言われている。琉球石灰岩の自然石をそのまま積み上げた野面積みの城壁がそびえている。



●斎場御嶽(せーふあうたき)

琉球王国時代の最高の神聖な場所。世界遺産。左の写真の三庫理(さんくーい)は 2 枚の石灰岩の巨岩が支え合うような三角形の洞門を形成している。

●ひめゆりの塔・壕跡

沖縄戦で多くのひめゆり学徒が亡くなった壕跡も琉球石灰岩の洞穴。結構ごつごつした岩石であった。

●首里城 城壁

首里城の城壁や門も、切り石積みの琉球石灰岩で作られていた。首里城の正殿は 2019 年の火災で焼損してしまったが、再建が進められている。左の写真は首里城に入るための第二の門「瑞泉門」。

●鍾乳洞の玉泉洞(休館中で見学できず。残念!!)

琉球石灰岩の鍾乳洞。つらら石と呼ばれる鍾乳石や石筍、石柱、巨大やリムストーンプールなどの見どころが多い鍾乳洞。



◆海岸で見つけた

●漂着軽石

令和3年8月に発生した小笠原諸島・福德岡ノ場の海底火山噴火に由来するとみられる軽石が沖縄の海岸に漂着したというニュースは記憶に新しい。浜は、波打ち際はきれいだが、浜の上部には軽石が結構打ち上げられたままになっていた。古宇利(こうり)島の北西部にあるティーヌ浜に行ったところ、漂着軽石を拾うことができた。



●ティーヌ浜の砂、サンゴ、ハートロック

ティーヌ浜は砂浜ではなく、サンゴのかけらのような浜であった。また、サンゴのかけらもたくさん落ちていた。もちろんこの浜の周りの岩礁も琉球石灰岩。浜には波の侵食で削られた2つの岩があり、「ハートロック」と呼ばれているとのこと。



2 沖縄 美ら海水族館

◆圧巻、ジンベイザメ、マンタ 世界最大級の水槽「黒潮の海」



何といってもジンベイザメやマンタが悠々と回遊する姿は圧巻である。見学した時間にちょうど、ジンベイザメの身体測定をやっていた。ダイバーがメジャーを使って、胴回りなどを測定していた。ジンベイザメは口の下部分を撫でられるとおとなしくなるとのことであった。27年という世界最長飼育記録も更新中とのこと。

●サメ博士の部屋



「サメ博士の部屋」というコーナーがあり、約10種のサメが泳ぐ水槽のほか、サメの皮の標本やホホジロザメの胎仔など、サメに関する資料が充実。左の写真はジンベイザメの顎の標本。横幅1.5mほど。細かな歯が300~350本、列をなしている。

●深海の海 ダイオウイカ、ミツクリザメ、リュウグウノツカイなどの剥製の展示がある。



●古代ザメ「メガロドン」の顎 復元模型 他

総合休憩所の「美ら海プラザ」には、カルカロドン・メガロドンの顎の復元模型があって、その大きさも体験できた。



海洋博公園内には、マナティー館、ウミガメ館、イルカラグーン、オキちゃん劇場(イルカショー)等の海洋動物とのふれ合い体験ができる施設がある。



3 その他 おもしろグッズ

●教訓茶わん

石垣島に伝わる不思議な茶わんの「教訓茶碗」。ネットでも買えるのだが、沖縄で買えないものかと、那覇市内の民芸店や焼物店を何件かのぞいて探してみた。扱っていない店がほとんどだったが、国際通りの壺屋やちむん通りの古ぼけた小さな店に3個だけ置いてあった。大小の2個購入。プラコップで「教訓コップづくり」をする時に、この本物を見せてから作らせたい。



●紅いもの粉末

沖縄で栽培が盛んな紅いも。紅いもタルトが沖縄土産の大本命とか。この紅いもの粉末を、那覇空港の乾物を扱う店で見つけた。鹿児島「むらさき芋」を使った酸・アルカリの指示薬のように使えるか、試してみようと思っている。



●ゆびハフ

これも沖縄の民芸品。指を置くまで入れて、いざ抜こうとすると口が締まって抜けない! というおもちゃ。